

おごせ 教育 Pick Up

越生小学校



9月1日(土)、越生小学校では親子学校整備が行われました。雨のため、除草作業はできませんでしたが、たくさんの保護者の皆様に集まっていただき、水道やトイレ、教室などの校内の整備を子どもたちと一緒に行っていただきました。学校内が大変きれいになりました。

梅園小学校

9月12日(水)、13日(木)に5年生が越生小学校と合同で宿泊学習に行ってきました。場所は小川げんきプラザです。夜のキャンプファイヤーは梅園小、越生小両校の児童が協力して運営にあたり、ゲーム、ダンスとも汗一杯になって楽しみました。



越生中学校

9月1日(土)に、光耀祭体験学習が行われました。当日は、陶芸や折紙と言った伝統文化からベタンクなどの新しいスポーツまで幅広く体験することができました。町内を中心に41名もの講師の方がご指導くださいました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

ミニトマ
オクラ・
5歳児は
パプリカ、
1マン・
歳児はピ
ナス、4
3歳児は



「と、みんなで植えました。」
育てて購入し、「おおきくなあれ
を育てて間もなく各クラス保
育士と園児で話し合い苗を決
め、3歳児は
ナス、4
歳児はピ
マン・
パプリカ、
5歳児は
オクラ・
ミニトマ

☆夏野菜だ〜いすき☆
越生保育園では、3歳以上
のクラスで保育園の畑に野菜
の栽培をしています。新学期
を迎えて間もなく各クラス保
育士と園児で話し合い苗を決
め、3歳児は
ナス、4
歳児はピ
マン・
パプリカ、
5歳児は
オクラ・
ミニトマ

越生保育園

ズームイン教育255

笑顔いっぱい
元気な越保っ子!

トそして大豆。(大豆は2月の節分に使います。)草取りをしたりお水をあげたりとお世話をし、夏にはおいしい野菜がたくさんとれました。とれた野菜を順番にお家へもって帰り、お家の方にお料理していただきました。「おみそしるにして〜」など子どもからのリクエストもあつたようです。翌日には、「たべたよ〜」「おいしかった」と、笑顔の報告がありました。野菜嫌いの子どもが自分たちで育てた野菜を口にでき、保護者の方からも「ほいくえんパワースゴいですね」とのお話をいただきました。

また、地域の方に協力していただき畑をお借りして、じやがいもやさつまいも作りもおこなっています。残念なこと今年植えたさつまいもの苗は、イノシシに食べられてしまいました。この自然界での出来事を子どもたちにも伝えることで食育のお勉強にもなりました。

夏野菜をたくさん食べた越保のこどもたちは、夏バテすることもなく、元気に今年の猛暑を乗り越えることができました。

越生浪漫

No.117

没後150年企画第2弾
「渋沢平九郎を知る 歩く」
を開催します

「わだいなびき撮り」コーナーでも取り上げましたが、「生涯学習市民のつどい」は、大盛況のうちに終了しました。満席で入場をお断りした方々に心よりお詫び申し上げます。◆渋沢平九郎はテレビ番組やインターネット上で「イケメン武士」として紹介されるなど、徐々に知名度が増し、「歴史女」の間でも人気が高まっています。講師の桑原先生は、「風采、容貌共に秀でて、誠に氣立てが善かった。(中略)撃剣は大変勝れて、私等と一緒に稽古していた頃は十五六歳であったが、年若にしてはよほど強かった」という義父渋沢栄一の平九郎評を紹介しておられました。美丈夫で剣腕が立つたばかりか、豊かな文才に富み、能筆であった



三代目若松若太夫と竹間沢車人形保存会とによる「傾城阿波の鳴門より」

ことも、遺された手紙や遺墨から伺い知ることができました◆三代目若松若太夫による説経節の熱演には、満場が静まり返りました。竹間沢車人形保存会との共演は、越生では、大正期まで成瀬で行われていた人形芝居が途絶えて以来の古典人形芝居の上演でした。幼い頃から浄瑠璃を好み、暗誦したという平九郎を追悼するのに相応しい舞台でした◆今回の催しを通して、行きずりの余所者として、打ち捨てられたかも知れない若者を懇ろに葬り、鎮魂供養してきた郷土の先人たちの温かい心を受け継ぎ、渋沢平九郎の人となりを後世に伝えていかなければならないとの思いを新たにしました。

—没後150年 記念企画— 郷土史講座「渋沢平九郎を知る 歩く」

- 第1回：平成30年11月11日(日) 渋沢史料館 収蔵品展「渋沢平九郎—幕末維新、二十歳の決断」見学会
午後8時集合出発 午後5時帰着予定(町バス利用) ※渋沢史料館(東京都北区西ヶ原)
 - 第2回：平成30年11月25日(日) 午後1時30分~3時
講演会「渋沢平九郎と幕末維新の越生」講師：間々田和夫氏(『越生の歴史』〈近世〉・〈近代〉執筆)
 - 第3回：平成30年12月9日(日)「越生町内 渋沢平九郎遺蹟めぐり」
午前8時30分~11時30分(町バス利用)
- ※10月16日(火)から申し込み受付(先着順・定員25人：3回とも参加できる方を優先します)
申し込み：町立図書館窓口(電話申し込み不可) 問い合わせ：町立図書館(電話：049-292-6116〈直通〉)
参加費：保険代・入館料(昼食各自)

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.78

コムスジ

「チョウ目タテハチョウ科」

コムスジは樹木の少ない住宅街にはいませんが、樹林が残っていれば、その林縁で見られる普通の種です。成虫はゆるやかに滑空して、葉の上を翅をゆつくり開閉して止まります◆本種は、埼玉県のほぼ全域に生息しています。また、県内には本種と同じミスジチョウ属のオオミスジ、ミスジチョウ、ホシミスジ、フタスジチョウが生息しますが、この4種は埼玉県で絶滅の恐れのある種類に指定されています。越生町にはミスジチョウが低密度ながら生息します◆コムスジは埼玉県内では年3回発生し、成虫は4月から10月まで見られます。幼虫はフジヤクズ、ハギなど、様々なマメ科植物を食べます。本種が林縁で見られるのは、



葉の上で制止するコムスジ

フジヤクズを主な食餌植物にしているためです。成虫はハルジオン、マルバウツギ、ネズミモチなどの白い花に訪花しますが、その姿はなかなか見ることができません◆3齢幼虫で枯葉の中で越冬し、餌を食べないまま早春に「さなぎ」になり、羽化は4月から始まります。この時期に本種に出会うと、いよいよ「蝶の季節」になったかと思え、元気づけられます。コムスジがいれば、それは樹林が残っている証拠であり、そこが里山的環境であると推測できます。そのようなことから、本種は環境指標生物と言えるかもしれません。

(巣瀬 司)